







令和7年度 すくわくプログラム 報告書

【テーマを設定する】	【探究活動を実践する】
<h2>『 育てる 』</h2>	●活動内容 ある時からナスの実に網状の傷が付き始めたことに気付く。傷があるナスが少しずつ増え、疑問を持つようになった。図鑑やインターネットで調べると傷の正体が「アザミウマ」という害虫によるものだったと分かった。クラスで話し合い、対策を考え、粘着シートと野菜にも人にも無害な殺虫剤で害虫対策を講じた。
活動②	●子どもたちの様子 夏野菜が順調に育ち、収穫できるようになってきたことを喜んでいたり子どもたち。傷があるナスが増えてくると、「これってなんだろう？」「病気かな？」とただの傷ではないのではないかという疑問を持つ児が出てきた。調べた結果を元に、保育者と一緒に粘着シートを設置したり、殺虫剤をこまめに撒いたりして日々の変化を観察した。
<h2>「このナスって病気？」</h2> <p>という『問い』をもとに、</p>	
【環境をデザインする】	
●準備した物 虫取り粘着シート、やさお酢(殺虫・殺菌剤)	 <p>この傷、なんだろう？</p> <p>傷が増えてきた...もしかして病気？虫に食べられた？</p> 
【活動スケジュール】	 <p>これでうまくいくと</p> <p>害虫がたくさん！ナスも元気になってきた！</p> 
【振り返りをふまえた気づき】	●職員カンファレンス 職員も初めのうちはよくある傷かと思っていたものが、子ども目線からは「虫に食べられてるんじゃない？」「なにかの病気なんじゃない？」といろいろな意見が出てきた結果、害虫によるものだったという発見があったため、子どもの視点の気づきから疑問の答えと対策を導き出すことができた事例であった。図鑑だけでは分からない部分は、保育者と一緒にインターネットで実際の具体的な事例を参考にしながら対策内容を考え、調べた子どもたちが主体となってこども会議で共有し、クラス全体で取り組みをスタートさせることができた。結果的に対策がしっかりと効果を出し、ナスは無事元の状態に戻った。収穫ができるようになってくると、ついその部分にばかり興味関心が向きがちだが、そんな中でも毎日の変化に敏感に反応する子どもの気づきを見逃さず寄り添うことで、今回のような危機も切り抜けることができた。今回の事例で、仮説を立て、調査し、対策を講じ、実践し、変化を観察するという過程を経験することができた。

